

要 約

- 1 佐渡金山遺跡（上寺町地区）は、佐渡市相川庄右衛門町・相川諏訪町・相川上寺町・相川次助町地内に所在し、現況は山林・原野等である。
- 2 遺跡は、大佐渡山脈南西部、相川湾に注ぐ濁川左岸の標高 100 ～ 150 m の山中に立地し、東西約 500、南北約 300 m、総面積は 90,000m² を測る。
- 3 遺跡は、時代末期から江戸時代初期にかけて相川金銀山の開発に伴い成立し、江戸時代中期に最盛期を迎え、昭和 20 年代以降に廃絶してと考えられる寺院跡・集落跡である。
- 4 調査は、保存を目的とした遺跡範囲確認のため、平成 24 年度から 25 年度にかけて実施した。調査面積は約 50,000m² である。
- 5 調査の結果、江戸時代から昭和初期にかけての遺構・遺物が検出された。特にテラス状遺構・石垣等の遺構や、墓石等の石造物が地表面において良好に遺存していることが確認できた。
- 6 確認された遺構は、テラス 83 基、墓域 8 基、石垣 85 基、石段 5 基、石列 7 基、道 9 条、井戸 5 基、池 3 基、水路 2 条である。
- 7 遺物は、16 世紀末から 19 世紀中葉にかけての椀・皿などの陶磁器 50 点、灯明皿などの土器 5 点、瓦 1 点を表採した。また、墓石・石柱等の石造物 385 基を確認した。
- 8 同遺跡に関連する江戸時代から昭和初期にかけての史料が数多く存在しており、江戸中期以降に確認できる 8 カ寺については、絵図資料とほぼ同一の場所に所在することが判明した。
- 9 寺院以外にも、鉱山勝場床屋関係者・買石・地役人・奉公人・職人・針仕事師等の鉱山関係者が居住していたことが江戸時代の史料に記されており、それに伴うテラス・石垣等の分布がみられる。
- 10 近代以降の鉱山関連施設として、鉱山へ労働力を供給した部屋頭の住居や鉱山長屋、鉱山と製錬施設所を結ぶ鉱車軌道等が建てられたが、昭和前期から中期にかけて廃絶している。このうち、明治から昭和初期にかけての鉱山労働者の寄宿舎であった大塚部屋の石垣・建物跡・井戸跡・水路跡を検出した。
- 11 上寺町地区は、16 世紀末から 17 世紀初頭にかけて、金銀の採掘が始まる相川金銀山の成立に伴う初期寺町域であり、現在の相川市街地の中寺町・下寺町が形成される端緒となった遺跡である。現在も、地表面でテラス・石垣等の遺構や墓石等の石造物が良好に遺存していることが確認できることに加え、文献資料等からも寺院群の変遷や規模等を知ることができ、江戸時代の鉱山関係者の生活・生業に係る信仰の一端を物語る重要な遺跡であると考えられる。